

伊那市環境審議会 会議録要旨

| | |
|-------|--|
| 会議名称 | 伊那市環境審議会 |
| 開催日時 | 令和7年1月28日(火) 14時00分～15時00分 |
| 開催場所 | 伊那市役所 501会議室 |
| 出席者 | 委員 9名(欠席3名) 事務局 6名 |
| 会議進行等 | 進行：生活環境課長 1 開会(副会長) 2 あいさつ(会長) 3 協議事項(進行：会長、説明：事務局) (1) 第2次伊那市環境基本計画の見直しについて (2) 一般廃棄物処理基本計画について (3) その他 4 その他 5 閉会(副会長) |

【要旨】

1 開会

【副会長】

第3回伊那市環境審議会を開会する。

2 あいさつ

【会長】

寒い中、また日々御多忙の中、出席いただき感謝申し上げます。本日は2件の議題が出ており、第2次伊那市環境基本計画の見直しと一般処理廃棄物基本計画については大詰めの審議となる。色々ご意見を賜りたいのでよろしく願います。コロナやインフルエンザが流行しており中々落ち着かない状況ではあるが、スムーズな議事進行に協力をお願いします。

3 協議事項

(1) 第2次伊那市環境基本計画の見直しについて

・事務局より説明（資料No. 1-1、資料No. 1-2）

【会長】

協議事項の質疑応答に入る前に、委員より資料を提供いただいたので説明をお願いします。

※資料を提出した委員より、長野県ゼロカーボン戦略や自治体排出量カルテから見る上伊那地域の二酸化炭素排出量の推移や伊那市の二酸化炭素排出量について説明。

【会長】

それでは、まず資料No.1-1、No.1-2について審議する。第2次伊那市環境基本計画について、内容の追加や変更点について質問や意見をいただきたい。

（委員からの質問、意見なし）

質問意見がなかったということで、この案を認めていただいたということによろしいか。

【委員】

はい。

【会長】

長野県カーボン戦略等についても見やすい資料の提供に感謝する。これについて意見や質問があるようならお願いしたい。

【委員】

自治体排出量カルテの部門別の数字を見ていただくとわかるが、上伊那管内でいえば、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村は、人口当たりの比率が同じになっている。伊那市においては相対的に産業部門の数字が少ない分、運輸部門、家庭部門、業務部門の比率が大きくなっており、一般家庭での削減努力が反映されやすい形になっている状況であると言える。

【会長】

先程委員の説明で森林の二酸化炭素吸収量について説明があったが、既に何十年と森林の二酸化炭素吸収量の計測を行っているが未だに正確な数字は出ておらず、測定のために大きな誤差が出るため正確な測定は非常に難しい。ただ現状として森林の二酸化炭素吸収量を考慮するよりも、我々が社会生活の中でいかに二酸化炭素を削減するかが重要だ。木は二酸化炭素を吸収する機能もあるが、再生可能であることを資源やエネルギーとして有

効活用して化石燃料の使用を減らしていくことが重要だと思う。伊那市は木質資源が豊富なので木を有効活用できる環境にあると思う。

また、最近では能登地震を含めた災害が頻発している。そういった意味でもエネルギー源をある程度地元で調達するというシステム構築も重要である。

(2) 一般廃棄物処理基本計画について

・事務局より説明（資料No. 2-1、資料No. 2-2、資料No. 2-3）

【会長】

一般廃棄物処理計画の内容追加や変更について、質問や意見をお願いしたい。

【副会長】

パブリックコメントが何もないというのは、主要なテーマに対して市民の関心がないということ。目標を達成するためにはもう少し関心をもってもらい、意見募集についてもこのままでいいのかと思うところがある。また、次世代を担う中学生や高校生の考えを聞くということが重要だと思う。伊那市について考えてもらう機会にもなる。

【会長】

選挙投票の年齢も18歳となったので、少なくとも高校生は啓蒙活動する対象になってくるので、高校生から意見を集めるのもいいと思う。ただ、身近な問題に対してはパブリックコメントは集まりやすいが、そうでなければ中々集まらず案件によっても差が出る。そういった部分についても今後の審議会でご意見等いただければと思う。

【委員】

若者が興味を持つのは華やかな分野だが、探究学習で二酸化炭素の削減をテーマにして取り組んだ子供もいたと聞いている。行政のなかでどうしたらいいかという部分をもっと発信していかななくてはならないと思う。事業を進める中で大きな決断をしなくてはならないこともあると思うが、そういった時にも子供たちが出すアイデアは面白いので、考える機会を与えるようなイベントがあってもいいように感じた。自分自身も、ペレットについて、伊那市はうまくやっているんだろうと楽観視したことで深く考える機会を失ってしまった経験がある。市民の皆さんにはもっとアピールをしないと興味を持ってもらえない。若者は今の状況を当たり前と考えてしまうと興味を持たなくなってしまうので、当たり前だと思われぬように周知してもらいたい。

【会長】

とても重要な視点なので検討をお願いしたい。他に内容の追加や変更点について質問や意見をいただきたい。

(委員からの質問、意見なし)

一般廃棄物処理基本計画についても、変更内容は軽微でありこのとおりでいいと思うが、皆さんからの質問意見がなかったということで、この案を認めていただいたということではよろしいか。

【委員】

はい。

(3)その他

- ・木質バイオマス発電設備の概要、現況について事務局より説明。

【委員】

森林の木を利用することは考えていないのか。

【事務局】

流木をメインとし、松枯れ木や場合によっては間伐材の使用を検討している。

【委員】

木が二酸化炭素を吸収する量というのは一定ではなく、吸収量が多いときもあれば少ない時もあると思うが、ある程度大きくなった木はそこまで二酸化炭素を吸収しないような気がする。コスト的に見合わなければ駄目だが、伊那市は森林資源が豊富なのでそういった木のサイクルも含めて材料を検討することはできないか。また、夜は売電するということが、夜は電気を使わないということではいいか。

【事務局】

夜はペレット工場の稼働が停止するので、その分の余剰電力は売電するということになる。

【会長】

立ってる木を使うというのは難しい。エネルギーとするためだけに育てて伐採するとなるとコストがかかりすぎる。本来木材は建築材や株として利用する際に端材が出るのでそういったものを利用するのが合理的だと考えている。端材はそのまま捨てれば産廃になるが、それをエネルギーに使うことができれば、経営難と言われている林業にお金が入るようになり、木材の循環だけでなく経済の循環にも繋がると見ている。ただ、有効活用する

にあたっては、知識を出すのは専門家や業界人だけでなく、市民の皆さんにも意識をもっ
ていただくことが重要だと考えている。

流木が美和ダムに大量に堆積した時に、活用方法を検討するために呼ばれたことがあ
る。流木は土石が丸太に食い込んでいるため、それをボイラーに入れてしまうとボイラー
に問題が発生したり、チップの刃が駄目になってしまうため活用が難しいという話にな
ったが、そういったものはクリアできるのか？

【事務局】

諸岡という会社の日本製のチップperを採用したが、実際に流木を引き上げて茨城県の工
場に持ち込んで試験を行い、利用できることを確認している。

【会長】

引き上げる際に流木を洗ったりしたのか？

【事務局】

多少引き上げる際にグラブで多少洗う程度。

【会長】

砂はなんとかなるが、礫が丸太に噛んでいることが多く、当時は活用が難しいと判断し
たところだが、今回の事業が動けば非常にありがたい。

チップを乾燥させる際、発電時に発生する熱をカスケード利用することになるが、これ
でチップ乾燥を賄えると思うが、具体的にどの程度二酸化炭素排出を削減しているか数値
を示したほうが説得力が増すと思う。私もペレットにかかわったことがあるがペレットは
とても電気を使う。その電気が太陽光から賄われているならいいが、ペレットを作るため
に化石燃料が使われているとなると意味がない。せっきくの地域資源、特にダム流木はこ
れまで使い道がなく、ダムの管理上も良くないし次に災害が起きた時に二次被害を起こす
可能性もあるため、ぜひ進めていただき、情報があったら審議会等で知らせてほしい。

【委員】

資料の中で、発電機を2台増やしても発電電力を消費可能とあるが、あと2台導入すれ
ば上伊那森林組合の消費電力の全てを賄えるということか。

【事務局】

今年度中にペレットの生産ラインを増やすことになっており整備を進めているが、これ
によりペレット工場の消費電力は増えることになる。仮にあと2台導入し3台で稼働して
もペレット工場の消費電力を全て賄うことはない。

【委員】

仮に3台導入しても足りない。

【事務局】

そういうことになる。3台で稼働するにしてもダム流木や松枯れ木、間伐材が不足するといった問題も見込まれる。

【会長】

そのとおりだと思う。その辺が難しい。ダム流木は土石流といった自然災害が発生した時に流れてくるもので、期待するものでもないし流れてこないほうがいいものである。間伐材についても、ここで動いている林業、林産業の枠を超えるとエネルギーのために木を切ることになり、そうすると山が荒れることになる。ちょうどいいサイズの発電機だと思う。他の自治体では大型のバイオマス発電を導入したことで想定した範囲での資源が集まらず収益圏を広げることができている。ほどほどのサイズでそこだけで賄うことが資源、確実に安い供給が行える範囲の発電がベストだと思う。ペレットの生産ラインも3月に竣工とのことで、そこでの需要と供給の様子を見てもらえたらと思う。

【委員】

4年程前になるが、山形県最上町が木質バイオマスの活用に取り組んでおり、プラントとして稼働しているモデルということで見学に行ってみた。温水や熱がでるのでプラントを囲むように更生施設や高齢者施設を作るなど様々な取り組みを行っているので、今後のこの事業を拡大するようなことがあれば参考にしてみるといいと思う。

4 その他

【委員】

「太陽光発電のすすめ」について案内

令和7年2月18日 13:30~16:30 inadani sees

5 閉会

【副会長】

長時間に渡る活発な審議に感謝する。以上、第3回伊那市環境審議会を閉会する。